

【技術委員会】

今回は株式会社ボーンデジタルのセールス/エンジニア担当の中嶋技術委員のコラムです。

【SIGGRAPH 視察アドバイス】

今年の SIGGRAPH はカリフォルニア州のアナハイムで開催されました。弊社は例年スタッフを視察に遣っており、今年も取引とミーティングを行うため出張しました。そこでここ最近のトレンドや最新の動向を振り返り、ボーンデジタル中嶋流の SIGGRAPH 視察のツボをご紹介します。

<http://www.siggraph.org/>



■準備、手配

スケジュール：

開催時期は概ね7月中旬から8月上旬の一週間ですが、最近では7月開催が多いです。基本開催場所は LA ですが隔年で北米各地を転々とし、バンクーバーでも開催されました。日曜からカンファレンスが始まり、火曜から木曜にかけて展示会が開催されます。また昨年からは DigiPro という共催イベントも始まっています。



★ポイント

ーカンファレンス視察は日曜夜の論文早送り紹介「Technical Papers Fast Forward (以下 TPFWD)」必見。

ー制作技術に興味があれば是非 DigiPro 参加を。DigiPro の開催場所は SIGGRAPH と異なるため要チェック。 <http://olm.co.jp/digipro2013/>

パス：

フルカンファレンス (Full Conference)、展示会専用 (Exhibits Only) は変わらないが、それ以外のパスの種類は年々変化している。最近ではセレクトカンファレンス (Select Conference) が登場。

★ポイント

- ー技術論文に興味があればセレクトカンファレンスでプロダクションセッションを選ぶのがお勧め。コスパ◎。
- ー有料パスは早割有。
- ー展示会専用パスは有料だが出展社から無料コードが配られている。必要な場合はボーンデジタルまで。
- ーエレクトロニックシアターのチケットはパスの種類を問わず後付け可能。

宿泊：

SIGGRAPH の Web サイトから宿を手配するのがお勧め。コスパの高い宿が見つかります。シャトルバスが巡回する宿ではバス代も無料。

★ポイント

- ーSIGGRAPH の Web サイトで予約できる宿は人気。早めの手配を。

■カンファレンス

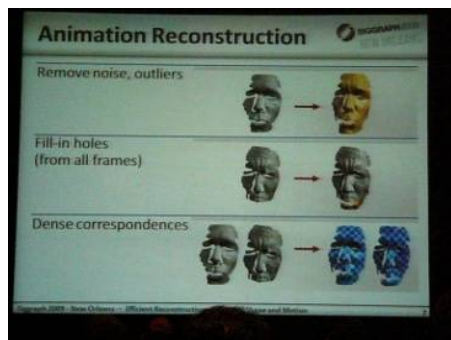
技術論文 (Technical Papers)：

最新研究の発表があり、研究者でなくとも着想を得るのに役立ちます。英語力は必要。日曜夜に開催される TPFWD は必見。

TPFWD は熱湯コマーシャルのように1分間の持ち時間で各発表者がプレゼンしますが、趣向を凝らした演出がととても面白く楽しいです。また英語力が低くても発表内容を簡単に理解できますし、聴講セッションを選ぶカタログのような存在として重要。

★ポイント

- ーTPFWD は必ず参加。
- ー過去のセッションは SIGGRAPH Encore サービスで視聴可能。



プロダクションセッション (Production Sessions)：

最近の映画の制作技術に関し、制作会社各社のスタッフが発表します。ILM、Pixar、Dream Works、Animar Logic 等、豪華な顔触れが揃います。スライドやムービーを見ているだけで概ね内容を理解できるため、英語力が低くてもレポートするのに困らないものが多く、また実戦でも役に立ちそうなネタを得られるため人気です。

★ポイント

- ー混んでいて入れない場合、中継会場を探してみる。複数の中継モニターでザッピングで



きるような部屋もある。

エマージング・テクノロジー (Emerging Technologies) :

商用化される前の研究中の技術を実機展示しています。VR やロボット、ディスプレイ、UI 等、ユニークな展示が多くて面白く、日本の大学の参加も多いのが特徴です。(図：かつて産総研がプラズマ放電により空中に図形を描く技術を展示。爆音を伴う装置でしたが凄いインパクトでした。)

★ポイント

ー展示会専用パスでは入場不可 (かつては可)。



エレクトロニックシアター (Electronic Theater) :

受賞作品の上映会ですが、上映開始前にユニークな催しがあります。ユーモラスな映像もあれば、映像とリンクした巨大大玉転がしゲームもありました。今年は「Rollin' Safari」が最高に面白かった。←YouTube で見れます。

★ポイント

ー15 分前には入場を。

番外編 :

著名人の基調講演もありますが、英語のスピーチのみとなるため理解には英語力が必要です。ジョージ・ルーカスが登壇したこともあります。

一度も行ったことはありませんが、河川 洋一郎氏による酒樽を開けるレセプションが恒例行事になっているそうです。今年も公式プログラムに「The 26th Anniversary CG Show/ SAKE Barrel Opening Party」として掲載されていました。

■展示会、ユーザーイベント

展示会場 :

年々規模が縮小しています。製品発表は会場を訪れるよりネットの方が速い時代、そして今年は Autodesk 不在です。また小規模メーカー、あるいはヨーロッパのメーカーも出展を見送る傾向が強いです。展示会はその価値を問われ続けています。

中規模以上のメーカーでは、各社講演ステージを設けており結構価値ある話が聞けます。これを目当てに訪問



するのも一興です。今年は nVidia ブースで本田技研が iray の研究開発事例を公開しました。また The Foundry ブースでは Pixar との提携の話もあったそうです。また ZBrush の Pixologic ブースはユーザー垂涎のスピーカーが名を連ねていまし。

製品探しでは単独ブースよりも共同出展ブースの小規模な展示 (Intel、nVidia、Shotgun ブース、あるいはフランス、韓国等のブース) を訪問すると良いかもしれません。展示がヘタで人気の無いブースでも、良い製品があったりします。また展示していないメーカーでも、スタッフはカンファレンスや展示会に訪れていることもあり、ミーティングしたい会社があれば事前にコンタクトすると喜んで面談に応じてくれます。

ちなみに今年のトレンドとしては、WebGL を使った Web ブラウザで動く 3D アプリを数社見かけました。いずれも小さい企業であるため目立っていませんでしたが、未来を占う要素である気がしました。

★ポイント

- ー使用製品のメーカーの事例講演をチェック
- ー日本語デモを行うブースも有。英語が苦手な方の出張報告◎
- ー共同出展の小さいブースを訪ねてみる
- ー出展社は日本のユーザーを教えてくれることが多い
- ー出展していないメーカーも会場にスタッフがいることがあり、アポもとやすい
- ーPixar ブースではティーポットと新作映画のポスターがもらえる (お土産に最適♪)
- ーノベルティの T シャツが必要ならば、積極的に話をする (公に配っていないことが多い)



展示者の技術セミナー (Exhibitor Tech Talks) :

出展社のセミナー。展示会パスでも聴講可能。nVidia のような大企業だけでなく、数社の講演が聴けます。

★ポイント

- ーnVidia 豊富なセミナーは興味深い。(レイトレーシング実装、CUDA 等の R&D 情報だけでなく、ユーザーとの共同研究の発表もあります。)



ユーザー会 :

Pixar のみが毎年まじめにユーザー会を行っています。その他は各社開催したり、しなかったり。



★ポイント

- ーPixar のユーザー会は雰囲気も良く、各国から人も集まる。おすすめ（ノベルティの帽子とティーポットももらえる♪）。
- ー非公開で行うユーザー会も多数あり、事前に代理店へ確認。ーAutodesk のイベントは混み合うため早めに向かうのが無難。
- ーユーザー会（User Meeting）でなくパーティーとなっている場合、ネットワーキングのための単なる飲み会。英会話ができないと参加価値が無い。

■アフターSIGGRAPH

SIGGRAPH 東京、DCAJ 等が開催していますが、SIGGRAPH の情報がほどよくまとめられて得られると思います。SIGGRAPH を視察した人も参加する価値はあります。漏らしている情報を得たり、他人の視点での SIGGRAPH レポートは参考になります。

株式会社 ボーンデジタル

中嶋 雅浩

【会員紹介】

CP0-JP のメンバーをより知って頂く為に、今回は「株式会社 ロードランナー」をご紹介します。

株式会社 ロードランナー

弊社は 2001 年（平成 13 年）11 月 9 日に自動車運送取次事業を主業務として設立されました。

設立当初は映画、TV などのフィルムを運搬する会社の子会社として運送取次業を行なっておりましたが、映像のデジタル化でフィルムの運送が減少したため、2010 年（平成 22 年）4 月 1 日に地図調査・制作事業を開始し、翌 2011 年（平成 23 年）2 月 2 日に株式会社ロードランナーへ改組致しました。

現在は各種地図の制作やそれに付随する現地調査、Web やカーナビゲーションの地点情報の更新作業を主業務としております。

弊社がおります地図の業界も、かつての写真製版からデジタル製版へと変遷する中で、作業の効率化や人件費の削減を図ってきた一方で、使用機材・ソフトウェアの導入、更新の費用の問題を抱えるようになってきております。

加えて Google マップなどに代表される無料の地図コンテンツが広く使用されるようになり、地図＝無料という考えが一般化してしまい、市場規模は大幅に減少する傾向にあります。

これと比例するような形で地図制作に対する予算も大幅な減少傾向にあるため、これからはコストを抑えつつ、より効率のよい制作環境を維持していく必要を感じております。

弊社はまだ駆け出しの小規模な会社ではございますが、今後とも CP0-JP を通じて各社様

と交流させていただき、微力ながら皆様のお力になればと思っております。引き続き、よろしくお願い致します。引き続き、よろしくお願い致します。



株式会社 ロードランナー
代表取締役 川隅 理一郎

【事務局より】

今年の夏は記録的な暑さとなり、毎日のように真夏日が続いております。
こまめに水を飲むようにして熱中症予防に努めるように経過しておりますが、
皆様は如何お過ごしでしょうか。

事務局より次回運営委員会のお知らせです。

9月27日（金） 16：00 より行います。場所は追ってご連絡いたします。

宜しくお願いいたします。

コンテンツ振興機構事務局

ご意見、ご感想は下記の事務所までご連絡下さい。

日本コンテンツ振興機構

〒180-0003 東京都 武蔵野市 吉祥寺南町 4-4-13 TEL:0422-35-3305 FAX:0422-70-3073

編集責任者 専務理事 野口和紀